

MARX-ENGELS
GESAMTAUSGABE

BAND 3

改造社版

一九二九年

マルクス・エンゲルス全集

第三卷

昭和四年七月五日印刷
昭和四年七月八日發行

發兌

東京市芝區愛宕下町
四丁目六番地

改

造

社

振替口座東京八四〇二番
電話芝(43) 四三二一番
電話芝(43) 四三二一番

マルクス
エングルス
全集第三卷

編纂代表者

山本

美

發行者

山本

美

東京市芝區愛宕下町四丁目六番地

印刷者

杉山

愛二

東京市牛込區市谷加賀町一ノ二

(新榮社製本)

Deutsches
Bürgerbuch

für 1846.

(Zweiter Jahrgang.)

Herausgegeben

von

H. Püttmann.

Mannheim, 1846.

Verlag von Heinrich Hoff.

編シマトツユビ。一ハるたり載の『片斷一のエリーフるす關に業商』スルゲンエ
扉の(年六四八一)『フッブルゲルユビ。スエチツイド』

第三卷

總目次

卷 頭

エンゲルス『商業に關するフリーエの一斷片』の載りたるハー・ピユットマン編『ドイツチエス・ピユルゲルブツフ』（一八四六年）の扉

イギリスに於ける勞働階級の狀態（エンゲルス——一八四五年）

河井金太郎 共譯

序言（一八九二年）.....一三

イギリスの勞働階級に寄す（一八四五年）.....二六

序 言（一八四五年）.....三一

緒 論.....三五

工業プロレタリアート.....五一

大都市.....五四

競 争.....五九

アイルランド人の來住.....一〇八

諸結果.....一二三

個々の諸勞働部門.....一六二

其他の勞働部門.....二二一

勞働者運動.....二三三

鑛山プロレタリアート.....二五八

農業プロレタリアート	二七五
プロレタリアートに對するブルジョアジの態度	二九

アメリカに於ける勞働運動(エンゲルス—一八七一年)	菊川忠雄譯 三二
---------------------------	----------

『ドイツ社會主義諸雜誌』より

エルベルフェルド集會(エンゲルス)	楢崎 輝譯 三五
ニューヨークに於いてヘルマン・クリーゲに依り編輯される	楢崎 輝譯 三四
フォルクストリビューン(マルクス)	楢崎 輝譯 三七
保護貿易制度か自由貿易制度か(エンゲルス)	楢崎 輝譯 三七
ライニツシエル・ベオーバハテルの共產主義(マルクス エンゲルス)	楢崎 輝譯 三五
道學的批判と批判的道德(マルクス)	宇野弘藏譯 三四
倫敦に於ける諸國民の祝祭(エンゲルス)	平井 新譯 三六
商業に關するフリーエの一斷片(エンゲルス)	平井 新譯 三九
瑞西の内亂(エンゲルス)	平井 新譯 三七

××××原則(エンゲルス—一八四七年).....	後藤信夫譯	四〇五
共產主義者とカール・ハインチエン(エンゲルス—一八四七年).....	高井三郎譯	四一五
チャーティストの土地計畫に就いて(エンゲルス—一八四七年).....	高井三郎譯	四二七
ポーランド革命の記念集會に就いて(エンゲルス—一八四七年).....	高井三郎譯	四三三
ゲエーテに就て(マルクス—一八四七年).....	河野密譯	四三九
哲學の貧困(マルクス—一八四七年).....	山村喬譯	四六三
序文(エンゲルス—一八八四年).....		四六七
獨譯書第二版への序文(エンゲルス).....		四八二
はしがき(マルクス).....		四八五
第一章 科學上の一發見.....		四八七
第一節 效用價值と交換價值との對立.....		四八七
第二節 構成價值若くは綜合價值.....		四九七
第三節 價值均衡法則の適用.....		五二六
第二章 經濟學の形而上學.....		五四五
第一節 方法.....		五四五

第二節 分業と機械.....五六三

第三節 競争と獨占.....五七七

第四節 土地所有若くは地代.....五八四

第五節 同盟罷業と労働者の團結.....五九三

附録

カール・マルクスの觀たるブルードン（マルクス——一八五五年）.....小岩井 淨 譯・六〇一

自由貿易問題（マルクス——一八四八年）.....小岩井 淨 譯・六〇九

保護關稅と自由貿易（エンゲルス——一八八八年）.....笠 信太郎 譯・六二五

保護關稅に就いて（マルクス——一八四八年）.....笠 信太郎 譯・六四五

凡 例.....六五三

解 說.....六五九

|| 終 ||

イギリスに於ける労働階級の
状態
(一八四五年—エンゲルス)

河西 太一郎
東井 金平
莊原 達
譯 共

『イギリスに於ける勞働階級の狀態』 目次

序言(一八九二年).....三

イギリスの勞働階級に寄す(一八四五年).....六

序言(一八四五年).....三

緒論.....三五

産業革命前の勞働者狀態——ツェニ多軸紡績機——工業及農業プロレタリアートの發生——スロツスル紡機、ミユル走錘精紡機、力織機、蒸汽機關——手工勞働に對する機械の勝利——工業力の發達——木綿工業——靴下製造業——レース製造業——漂泊、捺染、染色業——羊毛工業——リンネル工業——絹織物業——鐵生產及加工業——炭坑業——製陶業——農業——道路、運河、鐵道、蒸汽船——總括——プロレタリアートの發達が國民的意義を有するに至る——プロレタリアートに關するブルジョアジの見解

工業プロレタリアート.....五一

勞働者の分類——所有の集中——近代工業の動力——人口の集中

大都市.....五四

ロンドンの第一印象——社會的戰爭と普遍的掠奪制度——其際に於ける貧民の運命——貧民街一般——ロンドンの貧民街、セント。ガイルス及びその附近——ホワイトチャペル——プロレタリア住居の内部——公園に於ける無宿者——夜の避難所——ダブリン——エヂンバラ——リバープール——ノッティンガム、バーミンガム、グラスゴウ、リーズ、ブラッドフォード、ハッダースフィールドの工場諸都市——ランカシア概説——ボルトン——ストックポート——アシュトン・アンダー・ライン——ステリーブリッヂ——マンチエス

競争

ター詳説、その一般的構成——舊市街——新市街——労働者街の構成——路地及び裏町——アンコッツ——リットル・アイルランド——ハルム——ソールフォード——要略——下宿屋——人口の密集——密住居——労働者の衣服——食物——粗悪な肉類——不正商品——不正量目等——結論

108

賃銀の最低限を確定する労働者相互間の競争、其最高限を確定する有産者相互間の競争——ブルジョアジーの奴隸たる労働者は日々、時々自らを賣らなければならぬ——過剰人口——商業恐慌——労働者豫備軍——一八四二年の恐慌に於ける此豫備軍の運命

アイルランド人の來住

118

原因及び數——カーライルの敘述——アイルランド人の不潔、粗暴、飲酒癖——イギリス労働者に對するアイルランド人の競争及び近隣關係の影響

諸結果

113

緒言的記述——上述の諸事情が労働者の健康状態に及ぼす影響——大都市、住居、不潔等の影響——事實の狀態——結核——チブス、特にロンドン、スコットランド、アイルランドに於ける——消化器疾患——飲酒癖の結果——山師醫者——ゴッドフレス・コーディアル——プロレタリアート、殊に小兒間に於ける死亡率——ブルジョアジーに對する社會的殺人の告訴——智的及び道德的狀態に對する結果——教育施設の缺乏——夜學校及び日曜學校の不充分——無智——労働者の生活狀態がその無教育を補償する——労働者の徳育の等閑——法律が唯一の徳育教師——法律及び道德を無視する誘因は労働者の状態にある——貧困の影響——プロレタリアート及びその位地の不安定なるの影響——強制労働の宣告の影響——人口集中の影響——アイルランド人來住の影響——ブルジョア及びプロレタリアの性格の相違——プロレタリアのブルジョアに對する優越點——プロレタリアの性格の面白からぬ方面——飲酒癖——性交の放埒——家庭の解體——社會

的秩序の無視——犯罪——社會的戰爭の記述

個々の諸勞働部門。狹義の工場勞働者

機械の影響——手職工——男子の驅逐——婦人の勞働、家庭の解體——總ての家族關係の顛覆——工場に於ける多數婦人密集の道德的結果——*Jus primae noctiae* (初夜の權利)——少年の勞働——徒弟制度——爾後の制度——工場報告による記述——長き勞働時間——夜業——不具——比較的輕微な外部的疾患——勞働の性質——體質の一般的虛弱化——特殊的疾病——證言——早老——婦人の體質に對する特殊的結果——個々の特に有害なる勞働部門——災害——工場制度に關するブルジョアジーの見解——工場立法と十時間運動——精神を殺し且つ神經を鈍らせる勞働の性質——奴隸制度——工場規則——實物賃銀制度——小屋制度——一四五年の農奴と一八四五年の自由勞働者との比較

其他の勞働部門

靴下編工——レース製造——キヤラコ捺染工——天鰯絨毛切工——絹織工——金屬製品——バーミンガム——スタッフオードシア——シエツフィールド——機械工場——北スタッフオードシアの製陶地——硝子工場——手工業者——ロンドンの婦人裝身具製造女工及び裁縫女工

勞働者運動

緒論——犯罪——機械に對する反抗——團結、同盟罷工——團結及び同盟罷工の効果——其結果による犯罪——イギリス・プロレタリアートのブルジョアジーに對する闘争の性質——一八四三年五月マンチェスターに於ける戦闘——法律尊重はプロレタリアートには問題外——チャーティズム——チャーティスト運動の歴史——一八四二年の暴動——プロレタリア的チャーティズムのブルジョアジーの急進主義からの決定的分離——チャーティズムの社會的傾向——社會主義——勞働者の一般的立場

鑛山プロレタリアート

コーンウォールの鑛夫——オースタン・ムーア——鐵鑛及び炭坑——男子、女子及び少年の勞働——特有の疾病——低い坑道内の勞働——災害、爆發等——教育の程度——德性——鑛山法——坑夫の組織的搾取——彼等の間の運動——『組合』——北部イングランドに於ける一八四四年の大戦闘——ロバーツ並に治安判事及び實物賃銀制度に對する戦闘——闘争の結果

農業プロレタリアート

沿革——田舎に於ける極貧狀態——農業日雇勞働者の狀態——放火——穀物條例問題に有する無關心——無信仰——ウェールズ、小^{スモール}小作人——レベツカ騷擾——アイルランド、所有地の細分——國民の極貧化——犯罪——廢止運動

プロレタリアートに對するブルジョアジの態度

イギリス・ブルジョアジの道德的墮落——金錢慾——經濟學と自由競争——慈善の虚偽——穀物條令問題に於ける經濟學及び政治學の虚偽——ブルジョアジの立法及び司法——議會に於けるブルジョアジ——雇主及び使用人法案——マルサスの理論——舊救貧法——新救貧法——強制勞役場の蠻行の實例——イギリス將來の展望

序 言（一八九二年）

こゝに再びドイツの讀者に見えることになつた本書が初めて出版されたのは一八四五年夏のことであつた。で本書は善きにつけ悪しきにつけ、著者の青年時代の特徴を備へてゐる。當時私は廿四歳であつたが、今日ではその三倍の老年になつてゐる。ところで私が此の青年時代の勞作を再び通讀して感ずることは、これを少しも恥づる必要がないと云ふことである。従つて私は此の青年時代の勞作に伴ふ特徴をどうかして抹殺しようなどとは考へない。で私はこれを不變の儘で讀者に提供する。唯二三充分に明瞭ではない箇所は之れを一層はつきり表現し、且つこゝかしこに、年數（一八九二年）を書いた短かい、脚註を新たに附け加へて置いた。

本書の運命については、一八八五年にニュー・ヨークで本書の英譯、フローレンス・ケリー・ウィッツシュネウエツキー夫人に依る）が現はれたこと、そして此譯書が一八九二年にロンドンに於てスオン・サンシャイン商會から新たに出版されたことだけを述べて置く。アメリカ版の序言がイギリス版の序言の基礎となり、後者が又このドイツ版の序言の基礎となつてゐる。近代の大工業はその行はるゝ總ての國々の經濟狀態を非常に大規模に均等ならしめるので、私はドイツの讀者に對しても、アメリカ及びイギリスの讀者に對して云つた以外に殆んど何ものをも云ふ必要がないのである。

本書に書いてある事物の狀態は今日では——少くともイギリスに關しては——大部分過去に屬してゐる。資本家的生産が發達すればする程、その初期の段階の特徴である詐欺やゴマカシの下らないやり方では慇々やつて行けないと云ふことは、著名な教科書などには明瞭には擧げられてゐないけれども、實に近世經濟學の一法則である。最低段階に於ける歐洲商業の代表者たるポーランドのユダヤ人の下らない狡猾なやり方、その故國では非常に役に立ち、一般に用ひられてゐるそういふ手練手管も、一度びハンブルグ又はベルリンに來ると一向役に立たないのである。同様に、ベルリン又はハンブルグからマンチェンスターの取引所へやつて來る問屋——ユダヤ人たるとキリスト教徒たるとを問はず——は、少くともそ